

■ (73) いつも以上に記事で伝えたいときの技

21日に阪神甲子園球場で開幕するセンバツで、21世紀枠で被災地から選ばれた石巻工の主将が選手宣誓の大役を引き当てた。震災1年の3月の大会。公開のくじ引きなので、これほど今回の大会にふさわしい学校の球児に決まるとは思ってもみなかった。

報道する側からすれば、今回の選手宣誓を題材に、震災のことを多く伝えられる。復興の状況、被災地の暮らし、もちろん再開できた野球への思い…。どんな宣誓をするか、今から楽しみだ。そして、気持ちのこもった文章は必ず美しい。震災の追悼式典での被災地の代表3人のあいさつもそうだった。テレビは中継したり、ニュースで重要な言葉を選んで伝えたりした。新聞も、背景を紹介しながら、それぞれの言葉の意味を紹介したり、全文を掲載したり、とさまざまな形で紹介した。センバツの開会式もそれぞれが工夫を凝らしながら、被災地代表の主将の言葉を伝えていこう。紙面をはみ出す位の勢いで。

新聞を開くと、時々気づきませんか。活字が少し小さくなっていたり、行間が狭くなっていたり、に。いつも以上の文字数をどうしても載せたい時の編集の技なのです(山)